

平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

1 調査実施概要

(1)対象学年

- ・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- ・中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(2)調査の内容

①児童生徒に対する調査

ア 実技調査 (小学校、中学校ともに8種目で実施
小学校は20mシャトルラン、中学校は持久走と20mシャトルランから選択)

体力テスト種目	単位	体力要素	測定
① 握力	kg	筋力	左右握力の平均値
② 上体起こし	回	筋パワー ・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数
③ 長座体前屈	cm	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離
④ 反復横とび	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数
⑤-1 持久走	秒	全身持久力 ・長距離走能力	男子1500m、女子1000m の走行時間
⑤-2 20mシャトルラン	回	全身持久力	20m走行の折り返し回数
⑥ 50m走	秒	疾走能力	50mの疾走時間
⑦ 立ち幅とび	cm	筋パワー ・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離
⑧ ソフトボール投げ ・ハンドボール投げ	m	巧緻性 ・投球能力	ソフトボールを遠投した距離(小学校) ・ハンドボール2号を遠投した距離(中学校)
体力合計点	点	8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点	
総合評価	5段階	8種目の体力テストをすべて実施した場合、体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価	

イ 質問紙調査 (運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査)

②学校に対する質問紙調査 (子どもの体力向上に係る取組等に関する質問紙調査)

③教育委員会に対する質問紙調査 (子どもの体力向上に係る施策等に関する質問紙調査)

(3)調査実施期間

平成30年4月から7月末まで

(4)本県の調査学校数(公立学校)・児童生徒数

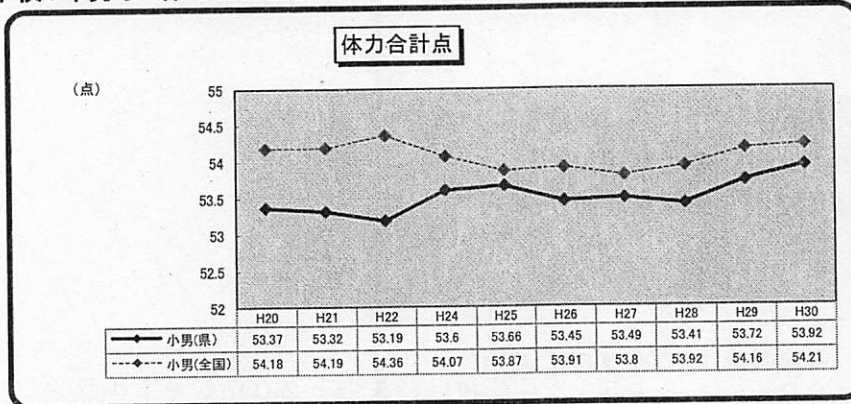
	学校総数	調査実施校数	標本数
■公立小学校	233	232	13,479 (男:6,869 女:6,610)
■公立中学校	111	110	12,388 (男:6,272 女:6,116)

2 調査結果の概要

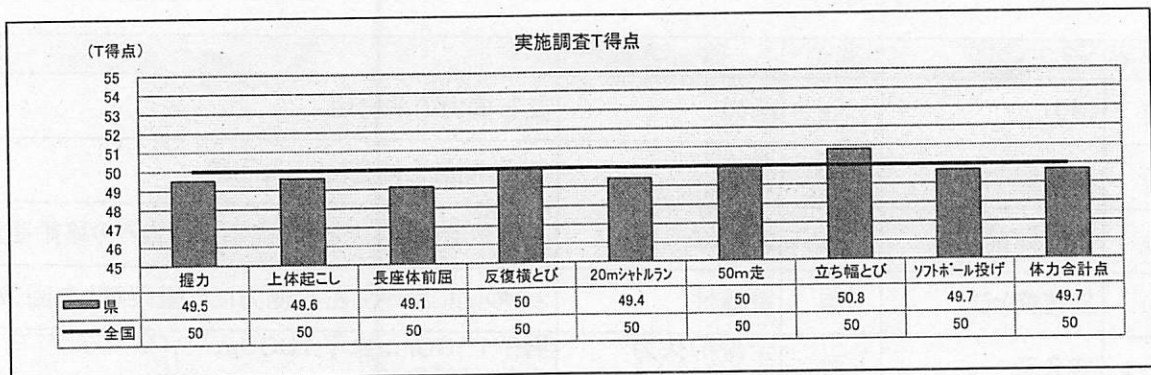
(1) 体力・運動能力調査

① 県の体力合計点の推移(全国公立学校との比較)

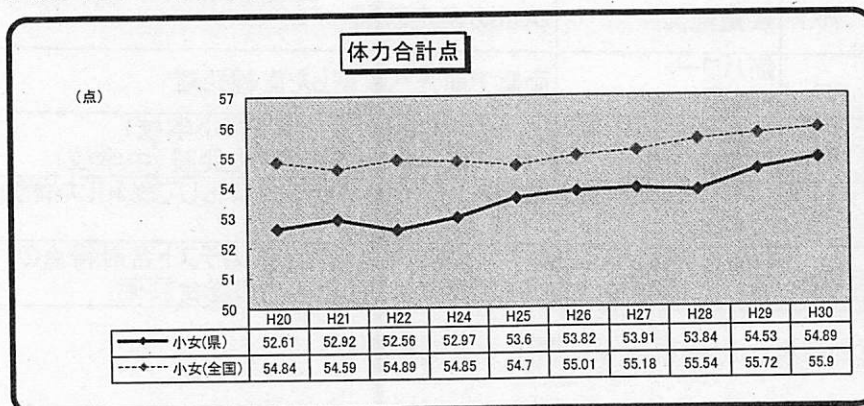
【小学校5年男子 体力合計点】



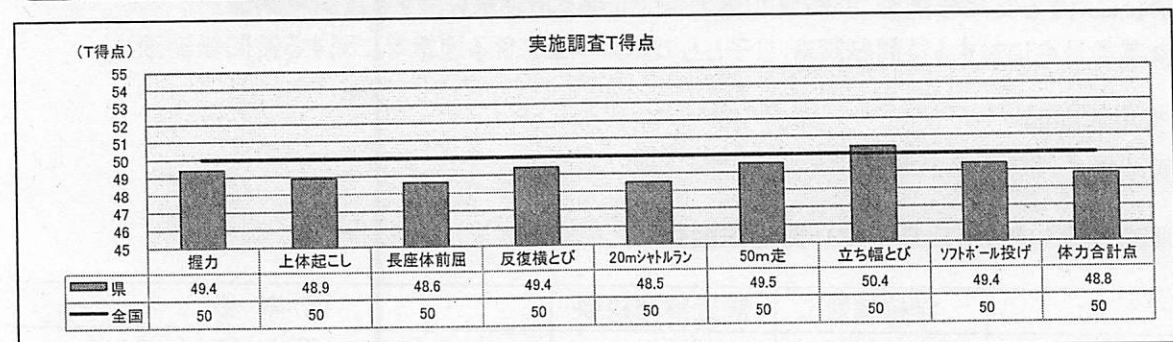
- 体力合計点は全国平均値を0.29点下回った。
- 本県の体力合計点の推移では、本調査を実施して以降、過去最高値となった。
- 全国平均値との差を昨年度と比べ、0.15点縮めた。
- 反復横とび、立ち幅跳びの2種目で全国平均値を上回った。



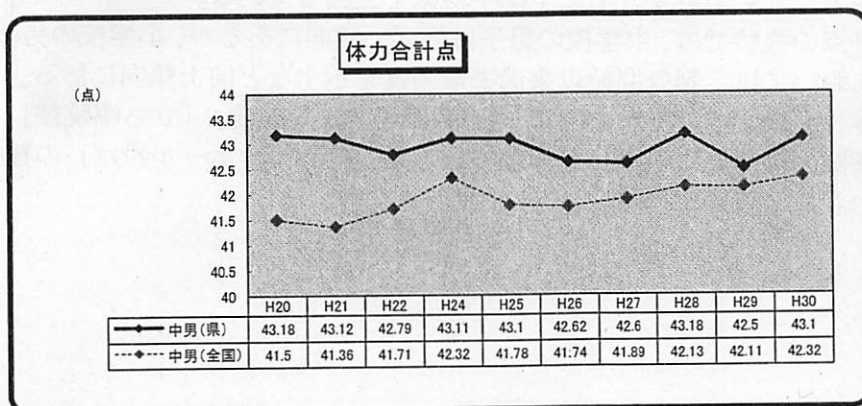
【小学校5年女子 体力合計点】



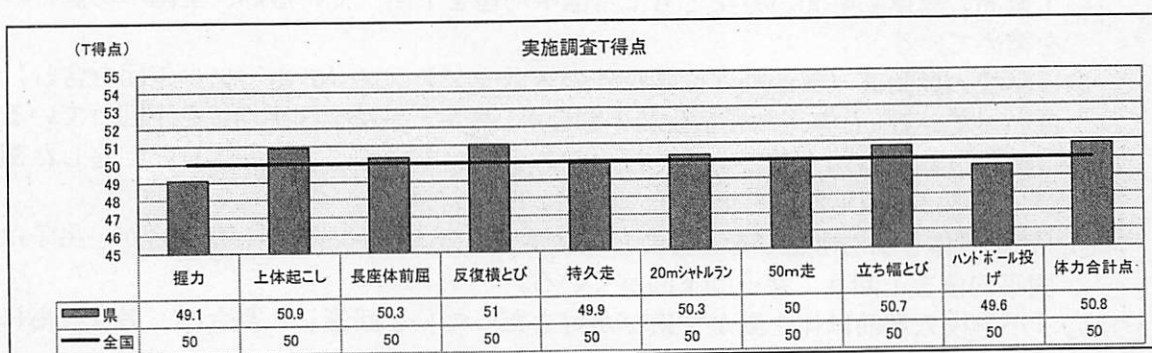
- 体力合計点は全国平均値を1.01点下回った。
- 本県の体力合計点の推移では、本調査を実施して以降、過去最高値となった。
- 全国平均値との差を昨年度と比べ、0.18点縮めた。
- 立ち幅跳びのみ全国平均値を上回った。



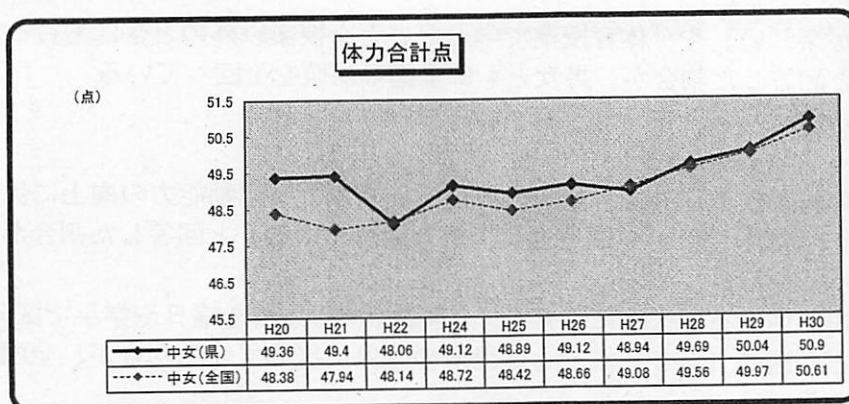
【中学校2年男子 体力合計点】



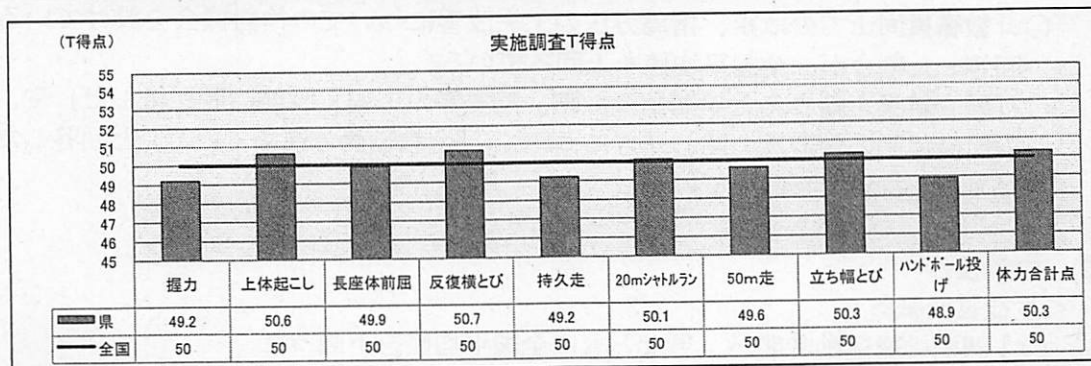
- 体力合計点は全国平均値を0.78点上回った。
- 全国平均値との差を昨年度と比べ、0.39点広げた。
- 上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳びの5種目で全国平均値を上回った。



【中学校2年女子 体力合計点】



- 体力合計点は全国平均値を0.29点上回った。
- 本県の体力合計点の推移では、本調査を実施して以降、過去最高値となった。
- 全国平均値との差を昨年度と比べ、0.22点広げた。
- 上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳びの4種目で、全国平均値を上回った。



②体力・運動能力調査結果のポイント

- ア 小学校では、体力合計点が男女ともに全国平均値を依然として下回っている。
- イ 中学校では、体力合計点が男女ともに全国平均値を上回っている。
- ウ 本県の体力合計点の推移では、中学校の男子は横ばい傾向にあるが、小学校の男女、中学校の女子においては、調査開始以来過去最高値を示すなど向上傾向にある。
- エ 種目では、小学校、中学校の男女ともに「反復横跳び」「50m 走」「立ち幅跳び」といった走力、跳躍力に関連する種目が伸びているが、「握力」「ボール投げ」の種目については低い状態が続いている。

(2) 運動習慣等調査

① 小学校

<児童質問紙>

- 1 週間の総運動時間が男女ともに全国平均値を下回っているが、全国平均値との差を縮めている。
- 「学校の運動部（部活動）や学校外のスポーツクラブ（スポーツ少年団を含む）には入っている」と答えた児童生徒の割合が、男女ともに全国平均値を下回っている。
- 「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好き」と回答した割合が、男子は全国平均値を上回り、女子は下回っている。
- 「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツは大切」と回答した割合が、男子は全国平均値を上回り、女子は下回っている。
- 「小学校入学前は体を動かす遊びが好きだった」と回答した割合が、男女ともに全国平均値を下回っている。
- 「ふだんの体育の授業では、授業の最後に学んだ内容を振り返る活動を行っている」や「体育の授業のはじめに目標が示されている」と回答した割合が、男女ともに全国平均値を上回っている。
- 「体育の授業が楽しい」や「体育授業で学んだことを授業以外のときにも行ってみようと思う」と回答した割合が、男女ともに全国平均値を下回っている。

<学校質問紙>

- 「体育、保健体育の授業以外で、全ての児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組（H29 年度）」の項目で、「年間を通して取り組んでいる」と回答した割合が全国平均値を上回っている。
- 「体育館を自由に使える」ようにしたり、「運動できる場所を曜日や学年で分け」たりするなど、運動（遊び）ができる場所の確保に努めている割合が、全国平均値を上回っている。
- 「教職員同士での取組、指導方法の工夫改善についての検討機会を設けている」と回答した割合が、全国平均値を上回っている。
- 「調査結果を踏まえた年間指導計画、授業等の工夫・改善に取り組んだ」や、学校の組織体制の教職員の関わり方について、「全教職員で進めている」と回答した割合が全国平均値を下回っている。

② 中学校

<生徒質問紙>

- 1 週間の総運動時間が、男女ともに全国平均値を下回った。
- 「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好き」と回答した割合が、男女ともに全国平均値を下回っている。
- 「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツは大切」と回答した割合が、男女と

- 「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツは大切」と回答した割合が、男女ともに全国平均値を下回っている。
- 学校の運動部活動に所属している割合が、男女ともに全国平均値を上回っている。
- 「保健体育の授業が楽しい」、「体育授業で学んだことを授業以外のときにも行ってみようと思う」と回答した割合が、男女ともに全国平均値を下回っている。
- 「ふだんの保健体育の授業では、授業の最後に学んだ内容を振り返る活動を行っている」や「保健体育の授業のはじめに目標が示されている」と回答した割合が男女ともに高い。

<学校質問紙>

- 「教職員同士での取組、指導方法の工夫改善についての検討機会を設けている」と回答した学校の割合が全国平均値を上回っている。
- 「調査結果を踏まえた年間指導計画、授業等の工夫・改善に取り組んだ」や、学校の組織体制の教職員の関わり方について、「全教職員で進めている」と回答した学校の割合が低い。

3 調査結果から見える成果と課題

(1) 小学校

- 多くの学校で、体育の授業以外での年間をとおした体力・運動能力の向上策を進めていることが、1週間の総運動時間において全国との差を縮めることにつながっている。
- 男子の「運動やスポーツをすることは好き」「運動は大切」と回答する割合が全国平均値を上回っているが、女子はいずれも全国平均値を下回っており、運動への愛好的態度が育っていない。
- 体育の授業を楽しんでいると思う児童の割合が低く、運動や運動遊びに意欲的に取り組む態度が十分に育っていない。
- 学校全体として、「教職員同士での取組、指導方法の工夫改善についての検討機会を設けている」と回答した割合が、全国平均値を上回っているものの、調査結果を踏まえた計画的な取組が十分に行われておらず、各学校での結果分析を全教職員で共有できていない状況が見られる。
- 男女ともに握力、ソフトボール投げで過去の数値と比べると、依然低い状況にあり、投動作が育っていない状況が見られる。

(2) 中学校

- 保健体育の授業中において、目標を示したり、学習したことを振り返ったりするなどの授業改善が見られるが、保健体育の授業の中に「助け合う活動」や「話し合う活動」を取り入れるなど、生徒自身が「できる」もしくは「わかる」ようになったと実感できる授業改善にまでは至っていない。
- 「保健体育の授業が楽しい」「運動は大切」を回答する生徒の割合が低く、運動やスポーツを行うことの必要性や楽しさへの認識が高められていない。
- 学校全体として、「教職員同士での取組、指導方法の工夫改善についての検討機会を設けている」と回答した学校の割合が全国平均値を上回っているものの、調査結果を踏まえた計画的な取組が十分に行われていない。
- 男子は握力、ハンドボール投げで過去の数値と比べると依然低い状況にあり、投動作を習得できていない状況が見られる。

4 今後の改善への取組

(1) 運動（遊び）・スポーツへの愛好的態度を育てる取組

- 幼児期から運動遊びを促進するため、市町幼児教育主管課との連携した取組を推進す

る。

- 「体育が苦手な児童生徒のための授業づくり」を重視した授業改善を図るなど、教員の指導力向上を目的とした研修会を実施する。
- 小・中学校において「体育が楽しい」と思える授業改善について、指導主事等が学校訪問を行うとともに、外部人材を活用した校内研修会の充実に努める。
- 中学校では、生徒自身が「できる」もしくは「わかる」ようになったと実感できたり、多様な運動の楽しみ方を学べたりできるように、先進地の授業実践事例を研究する。

(2) 校内体制の改善に向けた取組

- 各学校の課題を踏まえた具体的な目標を設定し、小学校では子どもの「体力向上プラン」、中学校では「PDCAシート」の改善を図り、学校全体の課題として取り組んでいけるように、体制づくりに努める。

(3) 運動習慣の確立に向けた取組

- 「保健」等の授業で、運動の必要性やその効果に関連づけて年間計画の見直し、改善を図る。
- 新たに開発した新体力テスト分析システムを活用し、その結果分析と体育の授業を関連付けて取り組み、体育の授業を核とした運動習慣づくりに努める。
- 小学校でのチャレンジランキングの取組を推進する。

(4) 家庭・地域との連携した取組

- 保護者用情報誌「教育しが」や各学校の通信等で保護者、地域への情報発信（運動紹介）を行い、家庭や地域での運動遊びの推進に努める。

(5) 課題のある種目への重点的な取組

① 小学校

- 課題である握力、投力を高める運動（遊び）や授業改善に取り組む。
 - 握 力→低学年の遊具を使った運動遊びを促進していく。
 - 投 力→投げる動作を身に付けていくための授業づくりを行っていく。
 - 柔軟性→総合教育センターと連携し、開発した新体力テスト分析システムを活用し、体育の授業の中で柔軟性を高めていく授業づくりを行っていく。

② 中学校

- 授業開始時に課題種目の動きを高める運動を導入するなど、課題である握力、投力を高める運動や授業改善に取り組む。